

日 時：令和元年12月5日（木） 13:30～15:00

場 所：応接室

出席者：湯峯会長、浦西副会長、植野委員、秋山委員、安岡委員、田中委員、  
山田校長、下澤事務長、林首席、森岡首席、中村教頭

1 校長あいさつ

2 出席者紹介

3 報 告

○「令和元年度学校経営計画」の進捗状況について（校長）

（1）確かな学力の育成

- ・授業アンケートはほぼ例年通り。主体的、対話的、深い学びをめざす授業充実に取り組んでいる。後ほど、「総合的な探究の時間」の取り組み報告で詳しく聞いていただくが、子どもの学びを促進するような役割としてのファシリテーションについての研修や、全教室にプロジェクターが整備されたことにより、ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりをめざしている。
- ・普通科の類型化。普通科の特色づくりとして、教育再生実行会議で出されている。地域の伝統校としての強みを大事にして、地域課題に取り組む探究学習を推し進めていきたい。

（2）進路実現

- ・トータルキャリアプラン。非常によく考えられているが、年数も経っているのでさらにブラッシュアップが必要と考える。進学講習に対する生徒の満足度は高い。

（3）豊かな心の育み

- ・人権研修として、性的マイノリティーの方を招き、教員研修と、生徒への講演をお願いした。
- ・部活動加入率については、1年生は上がったが、定着率を高める工夫が必要。遅刻総数は減ったが、割合としては微増。

（4）総合的な学校力の向上

- ・今年度、初任者がいないので、評価が難しい。

（5）その他

- ・地域連携として泉大津市中高連携推進会議（出前授業、卒業生の講話など）
- ・進路状況 就職は全員決定。大学・短大進学、医療・看護なども健闘している。

○「総合的な探究の時間」進捗状況（首席）

・現2年生から、先行実施

1年・・・「働く」をテーマに探究、「自己紹介すごろく」で話しやすい環境を作り、「新商品の開発」に取り組む。

2年・・・校外学習、修学旅行などの行事に配慮しながら、「観光ガイドブック」の作成に取り組んだ。後期は、泉大津市と連携し、「泉大津市の課題」について、環境、文化などのテーマに分かれて問題解決学習に取り組む。

○令和2年度教科用図書の採択について（教頭）

協 議

・従来の「総合的な学習」の取り組みと、「総合的な探究」の取り組みの違いは？（会長）

→受動的な学習ではなく、生徒自らの主体的・対話的で深い学びがあるか、アクティブラーニングになっているかが大きなポイントである。（首席）

・中学校は「主体的・対話的で深い学び」のある授業について、随分進んでいると思いますが・・・。（校長）

→まだまだ試行錯誤、実験的な取り組みで、中学校もやり始めたところである。（副会長）

・新しい指導要領では、「探究」が色々な教科で言われている。対話することで、自己の考えを高めていくことができる。それを評価するというのが観点別の評価であり、大学の研究者も苦勞している。さらに、主体性をどう評価するかはもっと難しい。まだ模索が続くのでは？（会長）

・対話力は読解力であり、その読解力とは、正解を導くための読解力ではなく、説明することができる読解力、すなわち対話力である。（会長）

・メンバーが変わると、話しにくい。正解を言うことに必死になる。間違いを言うと恥ずかしい。知らない相手だからこそしっかりと自分の意見や考えを伝えないといけないのだが・・・。（首席）

・「わかりやすい授業」とは？内容を簡単にすれば、わかりやすくなるが、それで良いのか？どういう点がわかりやすいのか、「学校は楽しい」って学校の何が楽しいのかを解明する必要があるのでは？（会長）

・クラスの雰囲気が良いとか、友達関係が良いということは大事だと思う。（委員）

・生徒が非常に優しい。温かみを感じる。このような学校文化が作られた要因は何？（校長）

→教員と生徒たちが作る雰囲気が良いのでは？距離感が良い。（委員）

→生徒に納得できるまで、うまく説明してくれる教員が多い。（首席）

・そういったことが、高い満足度につながっているのでは。学校が居場所になっていることは泉大津高校の強みではないか。（委員長）

・生徒の進路が多岐にわたるが、教員の負担感はないか。（委員）

→3年次には、クラス分けである程度進路別になるので、そこまで大変ではなくなる。進路指導部で、各パートの担当者が指導してくれるので安心感がある。（首席）